
● 編集後記

去る10月1日より新医薬品についての「市販直後調査」が正式に施行となりました。これに合わせて、本号と次号の2回シリーズで同調査をテーマに、製薬企業、医薬品卸業、病院薬剤師、厚生労働省の各方面の方々からご寄稿いただいております。

市販直後調査の制度面、運用面については著者の方々にお任せするとして、同調査は究極的には患者にとっての安全な医療の提供と医療現場でのリスクマネジメントに繋がるものと思われれます。リスクマネジメントと言えば、現在、IT技術を利用した様々な情報提供・情報管理システムの構築がなされつつあり、医療過誤の発生が極力最小限になるような試みが進んでいます。

「日本医薬品情報学研究会」でも、6月の福島での総会・学術大会に引き続いて去る8月28日に厚生労働省、日本製薬団体連合会、日本医薬品卸業連合会のご後援をいただいて「IT時代の医薬品情報」に焦点を当てたシンポジウムを開催させていただきました。会には非常に多くの方々のご参加をいただき、有益な意見交換がなされました。また、9月27日には厚生労働省の懇談会「医薬品情報提供のあり方に関する懇談会」の最終報告書が公表されました。ここでも、キーワードはIT関連技術。

『医薬品情報学』としても、今後は「IT」をキーワードとした会員の皆様への情報提供が重要な活動の一つとなりましょうか。

(H.K.)